

近時社會思想の發達や農村不安等の事情は互に錯綜して階級的反感を助長し、且從來地方に散在起伏せる農民団体は漸次勞働組合運動に刺戟せられ、常時的聯盟組織の必要なるを悟り、大正十一年全國的農民組合の創立以來工業勞働者と並行して彼等の所謂農民解放運動を起すに至つた。爾來到了るころに農民組合は組織され、激進積極的攻勢に出でて小作運動は益々深刻化し、時に激烈なる衝突争闘の慘事を見たことと云ふが、他方には農業委員会の設置、共同經營制度の實施、農村福利施設の開設等地主對小作人の除悪なる形勢を緩和し、兩者の調和を實現せんとする努力が近時著しく顯著になつて來てゐる。

更にまた政治運動の方面に在りては、總同盟其他

の組合は曾つて普選反對、議會否認等の極端過激なる叫びを擧げ、絶望的態度に出づるの餘儀なき状態に在つたのでよゝか、偶々普選法制度に關する劃期的聲明を機として勞働者の政治的行動勃興し、何れも熱心に無産政黨組織の具体策を講じ、大正十五年には勞働農民黨、社會民衆黨及び日本勞農黨等が結成された。無産政黨出現以來既成政黨は何れも之の對策に費し、時代の遷移に順應して國民大衆の聲望を集むる必要上目まぐるしき集合離散に忙殺せられたる、競うて社會問題を中心とする新政策を標榜するやうになつた。而して無産政黨によつては昭和三年共產黨事件の爲に勞働農民黨は解散を命ぜられ、其他は母体たる勞働組合、農民組合の内部の紛争離合に依り屢々分解